

生きる原点は食べて寝る

川崎さんご夫婦は車中泊で全国を旅しながら、毎日温泉に入り、道の駅などで生演奏をして人との交流を活発に行っている。くみさんは木笛のレッスンを栃木県を含む全国9か所で行う。

2人が那須烏山市に家を持ったきっかけは、「ゼロ円生活をしたい」という夢から。「今住んでいる場所は都市化が進み、もっと自然界に行きたい」と考えたそう。那須烏山のいい物件をたまたま目にし、住もうと決意。「栃木県には木笛のレッスンで来ているし、好きな温泉もあるのでピッタリ」。現在、茨城県つくばみらい市に住んでおり、月の3分の1ほどを那須烏山市で過ごす。

暮らし始めて、ご近所とは自然と仲良くなった。お隣さんとは趣味のギターで意気投合し、コーヒーを飲みながら話す仲だ。近所のおじさ



〈プロフィール〉
川崎くみさん 60歳 茨城県出身 音楽デュオ「音の旅人くみ∞せい」音楽家
川崎清市さん 62歳 東京都出身 音楽家



▲田舎の生活について語る清市さん

んには、家に住み着いている猫の面倒を頼んだりもする。知り合いの家にお邪魔してミニコンサートを聞くことも。

「那須烏山の人たちは素朴で人間味があって付き合ひやすい。すぐに打ち解けて10年20年付き合っている感覚」と語る。清市さんは、「生きることの原点は食べて寝ること」だと語る。車中泊も田舎暮らしも不便な面がある。しかし不便なことが何よりも自由を実感できるのだから。

音は心

くみさんと木笛との出会いは20年前に遡る。農業や音楽を楽しみ伸び伸びと子育てしている叔母のもとへ毎日のように通ううちに、叔母が首に掛けていた木笛に興味を抱いたことが、人生の転機に。実際に演奏を聴き、心が洗われたように気持ちスツキリした。それから毎日のように木笛を練習し、教えられるほどの腕前となる。

清市さんは塗装屋で生計を立てながら、木笛のギター伴奏を担当。2人の出会いは10年前。くみさんは木笛の伴奏ができるギターリストを探していた。そんな折、音楽関係の知り合いの家にくみさんが遊びに訪れていたところ、仕事で訪れていた清市さんと出会った。お互いに音楽をすることを知った2人は意気投合。しかし

実際に音合わせをしたのは2ヶ月後だったそう。というのも「音は心。相手を知れば、どういふ音を出すか分かる。だから音を聞く必要はなかった」とのこと。毎日のように話をし、価値観を確かめ合った。

それからは、被災地や道の駅で演奏を続けてきた。人の輪を通じて全国からオフアワーを受けられるほどに。カバー曲中心だが、オリジナル曲も10曲ほどある。「今後はオリジナル曲にも力を入れたい」と意欲を語る。

ありのままの自分

くみさんは初対面の私に対して「オーブンで、接しやすく話しやすかった。そんなくみさんも昔はネガティブ思考で、今とは真逆の性格だったそう。

彼女を変えたきっかけは、自動車の交通事故で、1ヶ月は全く動けなかった。「神様に『休め』と言われたような気がした」と言う。「考え方1つ」だと思ひ至り、「痛みがある」ということは治っている証拠」とポジティブに考えるようになる。「自分が強くなった気がした。人は何か究極なことがあると強くなる」と振り返る。

川崎さんご夫婦は、「ありのままの自分で、瞬間瞬間を愛と感謝で生きていく」という。2人のもとに人が集まるのは、かれらが心を開くことで相手も心を開き、深い関係を築いているからだろう。

担当：小野恭佑



▲木笛について楽しそうに語るくみさん